

【概略】

平成27年度 花巻市財務状況把握の結果概要について

総合評価

債務償還能力 [地方債等の債務の大きさとその償還原資を獲得する能力]

問題なし

実質債務月収倍率(②)が低いことから、債務の水準に**問題はない**。
また、行政経常収支率(④)が高いことから、償還原資の水準に**問題はない**。

資金繰り状況 [経常的な収支と積立金等の備えからみた資金余裕状況]

問題なし

行政経常収支率(④)が高いことから、経常的な収支の余裕度の水準に**問題はない**。
また、積立金等月収倍率(③)が高いことから、資金繰り余力の水準に**問題はない**。

財務指標

指標	①債務償還可能年数 ($\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収支}}$)	②実質債務月収倍率 ($\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収入} \div 12}$)	③積立金等月収倍率 ($\frac{\text{積立金等}}{\text{行政経常収入} \div 12}$)	④行政経常収支率 ($\frac{\text{行政経常収支}}{\text{行政経常収入}}$)
問題なし	7.9年	11.8月	4.4月	12.3%
やや注意		18月	3月	10%
注意	15年	24月	1月	0%

問題なし

(債務系統)

債務償還能力

問題なし

(収支系統)

問題なし

(積立系統)

資金繰り状況

今後の見通し

・今後の見通しについては、新市建設計画(平成28年7月見直し)に基づいて実施したヒアリングの結果を記載しています。

(平成37年度:債務償還可能年数12.9年、実質債務月収倍率13.9月、積立金等月収倍率2.9月、行政経常収支率9.0%)

⇒積立低水準

○県補助事業の減少や人口減少により国(県)支出金等、地方交付税が減少することなどから、行政経常収支は減少する見込みである。

○地方債現在高は、大型建設事業の償還が進むことから減少するものの、図書館整備事業の実施に伴い、その他特定目的基金を取り崩すことから、実質債務は増加する見込みである。